

プレスリリース

平成 30 年 8 月 27 日

国立研究開発法人 海上・港湾・航空技術研究所 海上技術安全研究所

海技研、平成 30 年度より「海洋開発研修」を開講

海上技術安全研究所は平成 30 年 12 月より新たに「海洋開発研修」を開講します。

海洋開発分野は、世界のエネルギー需要の増加により、中長期的には拡大すると見込まれており、この分野への挑戦は我が国の海事産業に高い波及効果をもたらすものと期待されています。

国土交通省や「日本財団 オーシャン イノベーションコンソーシアム」では、この分野で活躍する人材を育成するための教材開発等の取り組みが進められており、また、海洋基本計画（平成 30 年 5 月 15 日閣議決定）においても、海洋立国を支える専門人材の育成が求められています。

このような状況を踏まえ、海上技術安全研究所は、「海洋の開発」を重点研究の一つとして取り組んでいる研究所として、積極的に海洋開発の人材育成に貢献するため、研究者の知見、研究成果及び研究施設等を活用した海洋開発研修を平成 30 年度より新たに実施することとしました。

今回開講する海洋開発研修は、海洋開発に関連する基礎知識を習得できるように下記概要によりカリキュラムを設定しています。

記

目 的：海洋開発に直接又は間接的に携わることになる大学新卒者や既に携わっている方を対象に、海洋開発に必要な基礎知識を習得すること

日 程：平成 30 年 12 月 5 日(水)～ 7 日(金)

会 場：海上技術安全研究所（東京都 三鷹市 新川 6-38-1）

対 象：海洋開発関連企業・団体の社員・職員及び研究関連の方々、学生の皆様

講義内容：海洋開発に関する基礎研修（座学およびシミュレータ訓練等）

講 師：海技研職員、一般財団法人日本海事協会職員、J-DeEP 技術研究組合役員

受 講 料：8 万円／人（懇親会費用を含みます）

備 考：受講者へ修了証発行

<問い合わせ先>

海上技術安全研究所 千秋 貞仁（0422-41-3647）、(kenkyu-gyomuka@nmri.go.jp)

講義内容		講師、時間
①【海洋開発工学概論:海洋資源開発】		海洋開発系長 正信講師
1)	海洋資源の紹介	225 分 (2.5 コマ)
2)	海洋資源開発に向けた我が国の動向	
3)	海洋石油・天然ガス開発の流れ	
4)	海洋資源開発の技術体系（探査、掘削、開発、生産等）	
5)	浮体式生産システム（位置保持、ライザー等含む）	
6)	サブシーシステム	
7)	浮体式海洋構造物の設計概論	
②【海洋開発工学概論:海洋再生可能エネルギー開発】		海洋先端技術系長 藤原講師
1)	海洋の風・波・流れなど	180 分 (2 コマ)
2)	洋上風力発電システム	
3)	波力発電システム	
4)	潮海流発電システム	
5)	その他の発電システム	
③【海洋開発工学概論:海洋構造物設計基準】		日本海事協会 小山講師
1)	海洋構造物に適用される基準類（IMO,ISO,API,船級）	90 分 (1 コマ)
2)	MODU (Mobile Offshore Drilling Units), FPSO, FLNG	
3)	浮体式洋上風車（MODU と異なる部分を中心）	
4)	HSE (Health, Safety & Environment)	
④【DP シミュレーター】		主任研究員 横井講師
1)	DP 船の概要（用途と構成、操船・操業法）	270 分 (3 コマ)
2)	DPO としての掘削船の操船と操業	
3)	事故例	
4)	DP シミュレータハンズオン・その1(サブライ船によるアプローチ操船)	
5)	DP シミュレータハンズオン・その2（掘削船の操船・操業）	
⑤【次世代海洋開発プラットフォームとしての AUV】		系付上席研究員 金講師
1)	AUV と海洋開発	90 分 (1 コマ)
2)	AUV の頭脳: 航法・誘導、制御技術	
3)	AUV の五感: センシング技術	
4)	AUV の手足: 推進、操縦技術	
5)	AUV 開発の理論と実際	
6)	AUV 運用の最前線	
⑥【運動制御技術】		日本海事協会 高品講師
1)	浮体の運動シミュレーション	90 分 (1 コマ)
2)	浮体の位置制御とその基礎理論	
3)	DPS シミュレーション例	
⑦【施設見学、実験立会】		
	深海水槽など	90 分 (1 コマ)
⑧【特別講義】		J-DeEP 技術研究組合 理事長 赤羽講師
1)	FPSO 備船契約におけるリスクの解説と実例	45 分 (0.5 コマ)